

ミツワデイリー（神戸市東灘区）の岡山工場（岡山県浅口市）は、コンビニエンスストア向けに各種調理麺を生産する。2015年の工場移転を機に導入した業務用ヒートポンプ給湯機で、冷水と温水をつくり、麺をゆでる工程などに利用。エネルギー利用の効率化を図り、旧工場に比べボイラに使う燃料など1次エネルギー使用量を24%削減した。

同社は東洋水産の完全子会社で、岡山工場はコンビニエンスストア向けに冷やし中華、ざるそば、焼ら貝材まで、調理麺をきそばなどの調理麺を一貫生産する。工場で

生産する。以前の同場の別の場所にあったが、生産量が増加し、手狭になったため現在地に移転した。

工場は中華、うどん、そばなどの製麺から、きそば、焼ら貝材まで、調理麺を一貫生産する。工場



～エレクトロヒート技術最前線～ 9

■ ミツワデイリー ■

ヒートポンプ給湯機



2台の業務用ヒートポンプ給湯機で温水と冷水をつくる

▲

管理担当の 田中喜代治氏。Cの温水をつくり、温

必要だったヒートポンプ給湯機を2台導入した（設備した）。

ヒートポンプ給湯機は6度Cの冷水と80度Cの温水をつくり、温

冷・温水つくり製麺効率化

使う水の量は1日約400ト。このうち温水は約100トだ。旧工場では20度Cの水をボイラで加熱し、麺をゆでる工程で使う必要になる。そこで、冷水をつくる際の熱源を利用し、温水を同時に作るヒートポンプ給湯機を2台導入した（設備した）。

そのための新工場建設にあたっては「エネルギーの利用効率を高め、冷水は野菜の洗浄などにも使うため、温水よりも利用量が多い。そこで温水が不要な時は空気を熱源に冷水をつくり、タンクに貯蔵する方法を採用した。

水は茹で槽の補給水として供給し、残り100度Cまでを蒸気で加熱する。ボイラをアシストすることで燃料の使用量を削減できた。ただし、冷水は野菜の洗浄などにも使うため、温水よりも利用量が多い。そこで温水が不要な時は空気を熱源に冷水をつくり、タンクに貯蔵する方法を採用した。

同時に、ボイラの燃料は重油から液化石油ガス（LPG）に転換。ボイラへの温水供給などと合わせて、旧工場と比べ二酸化炭素排出量を24%削減した。

新工場は稼働後もエネルギーの利用効率化を進め、冷水タンク増設なども行った。今後は「冷水のリサイクル利用などを検討したい」（同）としている。

【事業所概要】▽所在地＝岡山県浅口市金光町佐方21の2、0865・42・5110▽主要生産品目＝コンビニエンスストア向け各種調理麺▽年間エネルギー使用量＝非公表▽年間CO₂排出量＝非公表

同時に、ボイラの燃料は重油から液化石油ガス（LPG）に転換。ボイラへの温水供給などと合わせて、旧工場と比べ二酸化炭素排出量を24%削減した。

新工場は稼働後もエネルギーの利用効率化を進め、冷水タンク増設なども行った。今後は「冷水のリサイクル利用などを検討したい」（同）としている。

（岡山支局長・大櫛茂成）